

はじめての枝打ち体験



11月13日、小中学生で秋の学校林活動を行いました。夏の学校林活動は本番、予備日ともに雨に降られ、中止となったので、アシビ谷の学校林に行くのは春の活動以来、半年ぶりのことでした。

「あれから木はどれくらい大きくなったのだろう」「台風で木は大丈夫だったかなあ」と山を上っていくと、なつかしい学校林。

まずは、春にも観察した自分たちの班の木のところに行ってみました。見ただけでもはるかに生長の様子がうかがえます。織田さんが用意してくださった秘密兵器で木の高さを計ってみました。5mをこえる木もありました。

ヘキサチューブの上から伸びた枝葉はもう苗木の域をこえ、立派な山の木です。まだヘキサチューブの中で生長をしているヒノキも、チューブをはずして見てみると、柔らかな緑の葉が生き生きとしています。ゆっくりと生長しています。コナラの木はどんぐりの実をつけていました。



観察を終えた後、初めての「枝打ち」の作業に入りました。織田さんが実際に枝打ちを見せてくださいました。「一番下の枝からはじめる」

「のこぎりを枝の下から入れてその後上から切り落とす」「中学生の目線の高さぐらいまでの枝を落とす」「落とした枝は木のまわりに積んでいく」などの手順を教わりました。「なぜ枝打ちをするのだろう？」



地面に日がよく当たり木がよく生長する、風通しがよくなり木が元気になる、枝打ちをした木は質がよくなるというお話を聞かせていただきました。枝打ちをしなかった木の材木は節の所を押すと穴があいてしまいますが、枝打ちをした木の材木は穴があきません。

いよいよ班に分かれて作業に入りました。中学生がリーダーとなり、下学年の人たちの作業を手助けしてくれました。織田さんに教えていただいた通り、下の枝から下学年の人がのこぎりを入れます。中学生が木の枝を持ってくれたり声をかけてくれたりしました。交代しながら最後の仕上げは中学生。1本の木の枝打ちが終わると、次の木に移動します。だんだん手順を覚え、のこぎりの使い方にも慣れてくると、低学年の人も一人で枝



を切り落とすことができるようになりました。集中して作業に取り組み、時間のたつのも忘れてしまいました。作業終了の合図があった時には、もうすべてのスギの木の枝打ちが終わっていました。作業をしている時には気がつきませんでした。木の枝がなくなり、広々とした木の間は明るくなりました。上から見下ろせば、さえぎるものがなくなり下まで見通せます。すっきり、さっぱりした感じでした。「これが枝打ちをするわけなんだ」と実感しました。今回は、毎年秋にやっていたヘキサチューブを麻ひもでひっぱる冬支度の作業はできませんでしたが、はじめての「枝打ち」を体験することができ、これでまた一つ山の仕事を覚えることができました。この冬も雪に負けることなく、雪解けの春には元気な木の姿を見ることができるのを楽しみにしています。事前に道をあけてくださったり、当日ご指導いただいた、森林組合のみなさま、ありがとうございました。

久多のお年寄りの方とふれあい交流会



11月24日、小学校1年生から4年生までの10人が久多のいきいきセンターを訪れ、お集まりいただいた久多のお年寄りの方々といっしょに「ふれあい交流会」開きました。「こんにちは〜！」とみなさんお待ちかねのお部屋に。いっしょにお弁当を食べながら、お近づき。食後は、子どもたちが「いっしょに遊んでください」と声をかけに行き、かるたやトランプ、坊主めくり、お手玉などをして遊びました。すっかりうちとけた頃、



いよいよ発表の始まりです。クイズやなぞなぞを出して、グループで相談して答えてもらいます。「なんやろう?」「わかった!」とホワイトボードに答えを書いていきます。イントロクイズもありました。おばあちゃんたちがなつかしく思われるような1960年代の歌や童謡のイントロが流れます。イントロが流れると、「あっ!○○や」と口ずさまれる方も。子どもたちは「何という歌?」とおばあちゃんたちにたずねます。いっしょに相談したり拍手をしたりしながら楽しいひと時。トランプやひもなどを使った手品では、練習の成果を



発揮します。つりゲームは、点数の書かれた魚カードをわりばしの釣り竿でつりあげます。魚カードの穴に針をひっかけるのはとても難しいですが、おばあちゃんたちも目を凝らしながら魚を釣り上げます。次は、子どもたち全員でペープサート劇を発表しました。ペープサートを動かすのは先生。子どもたちは朗読に専念します。大きな声で発表する子どもたち。おもしろい所では笑っていただいたり、最後には大きな拍手を送っていただいたり、子どもたちも楽しく発表することができました。時間はどんどんたっ

いよいよ終わりが近づいてきました。おばあちゃんたち一人ひとりに、手作りのプレゼントを渡しました。落ち葉をはさんでメッセージをそえたコースター。湯飲みのふたにもなります。「いつまでも元気でいてください」と渡しました。とっても喜んでいただき子どもたちも笑顔でした。久多社協の方々からは子どもたちにおみやげもいただきました。

「また来年きてね」「今日はありがとう」とお言葉もいただき、大きく手をふりながら「またねえ～」と子どもたちはおばあちゃんたちの帰られるバスを見送りました。この日のために、3・4年生が中心となってお年寄りの方々に楽しんでいただける遊びやゲームを考えてきました。みんなで心をこめてプレゼント作りもしました。いろいろお話をしたり、笑いあったりしながら、すっかりうちとけて心触れ合うことができました。たくさんお集まりいただいたお年寄りの方々、そして久多社協の役員のみなさま、いきいきセンターの所長様、ありがとうございました。また、来年も寄せていただきます。

ほくほくのやきいも

大きなまっかなさつまいもをたくさん収穫した1・2年生は、このさつまいもを使って「やきいもパーティー」をしました。寿会の方々が、朝早くから薪を組んで火をおこしてくださったり、子どもたちがさつまいもをアルミホイルに包むのを手伝ってくださったりしました。ピヨピヨ会のお友だちも来てくれました。大きく燃える火がよい火種になった頃、「どれぐらいで焼けるのかなあ」とわくわくしながら火の中にさつまいもを入れる子どもたち。さつまいもが焼けるまでの間、子どもたちは寿会の方やピヨピヨ会のお友だちを誘っていっしょに遊びました。坊主めくりやジェンガなどを



楽しんでいううちに、「もうそろそろかな」と火の中のさつまいもに竹ぐしをさしてみました。もう焼けているものもあり、取り出してアルミホイルをはがしてみると、「いいにおい～」。ほくほくのやきいもができていました。次々とやきいもを取り出して、焼きたてのおいもをみんなでいただきました。「おいしい～！」焼きたてのおいもは、他の学年の人や中学生にもお届けしました。朝早くから準備をしていただいたり、春の苗植えやいもほりなどを教えていただいた寿会の方々、ありがとうございました。

花折トンネルができて

3・4年生は、社会科で「地域のためにつくした人々」という学習をしています。その中で、葛川という地域を大きくかえた「花折トンネル」の学習を取り入れました。花折トンネルができるまでは花折峠をこえる旧道を歩いていたという話を聞き、実際に旧道を歩きながら昔の葛川の人々の生活について考えること



になりました。道先案内人は、仲平の小西達雄さん。まずは、旅の神様とされる「庚申塚」に行きました。昔は旅に出るときにこの「庚申さん」に立ち寄り「無事帰って来れますように」とお願いして出発したそうです。庚申塚を出発して、花折峠の旧道の入口へ。「昔、殿様がかごに乗って通られた殿様道もここにあったんだよ」と教えていただきました。途中側から旧道の山道を花折峠まで歩いて上りました。下を見下ろすと、車の走る国道が見えていましたが、そのうちすっかり山の中に入り、車の音も聞こえなくなり、聞こえてくるのは沢を流れる水の音だけになりました。峠の上に着くと、「花折峠」と書かれた石碑がありました。昔はこの道を歩いて山を越えて京都や堅田に行っていたのだという話を聞くと、大変だっただろうと思いました。山道を下りて、今度は花折トンネルをバスで通り抜け、出口の「顕彰碑」へ。わずか1分ほどでトンネルを抜け、さっき歩いた山越えの道のことを思えばずいぶん楽です。普段、当たり前のように通っているトンネルが大変貴重なものに思えました。峠の道を車でこえていた時には、雪で車が動かなくなることもあり、山を越えることがとても大変なことでした。トンネルを掘ってほしいという地域の方の強い願いをかなえるために、何年もかけてたくさんの人がお願いに行ったり、たくさんの方の手により工事が進められ、やっと完成したのがこの「花折トンネル」だということです。その功績を残すためにたてられたのが「顕彰碑」。たくさんの人の思いが詰まっているように思えました。この花折トンネルができたことにより、人々の生活は大きく変わりました。小西達雄さんにたくさんのお話を聞かせていただき、地域の人々の思いや願いをかなえるためには大変な苦労や努力があったことを感じました。これからは「花折トンネル」を車で走り抜ける時には、昔の山道を思い浮かべながらそのありがたさを感じたいと思いました。



小中学生で地域の掃除

小中学生で秋の地域清掃を行いました。「地域のために何かできること」を考えて毎年夏と秋にこの清掃をおこなっていますが、今回は、葛川の仲平、坂下、木戸口、中村、坊村の5町の掃除をすることになりました。当初は、お宮さんの掃除を考えていましたが、先日の台風による倒木があったため、仲平と中村は集会所を、坂下、木戸口、坊村はそれぞれ町の町にあるお宮さんの掃除をしました。小中学生がそれぞれの町に行き、普段なかなかできないようなところを探して掃除をしました。神社のたくさんの落ち葉を掃いて集めたり、細かい草をぬいたりしました。集会所の玄関やサッシのゴミをとったり、床を水拭きしたりしました。元からきれいにしておいてくださる箇所ももう少しきれいになりたい、こうやったらきれいになるかなあなど考えながら掃除をしました。限られた時間でしたが、自分たちで考え、手を動かすことで、何か役に立つことができたのかなという思いで各町を後にしました。葛川の他の町や久多の掃除も今後行っていきたいと思っています。

